大會抄錄

ジャワの共同占有の解體をめぐって

植村泰夫

十九世紀後半、ジャワにおける土地所有の「轉換」問題は、極めて重要な統治上の問題であった。オランダ政廳は、中部ジャワ一帶に廣範に存在する共同占有を世襲的個人占有へと「轉換」させるべく、様々な努力を行なったのであるが、結果的にはあまり成果を上げえなかったと言われる。

この問題については、十九世紀後半以來、多くの議論があるが、その論點はほぼ「轉換」が順調でなかった原因の解明に集中している。

ただ、この時期のこの問題に關する史料を檢討してみると、たしかに個人占有デサの數はほとんど變化していないが、もう一方で土地割替を實施するデサの數が減少しているという特色がみられる。このことは、「轉換」にまでは至らなかったにしても、この時期に共同體的規制が弛緩して農民の土地所有權が次第に確立してゆく傾向を示していよう。

この報告では、從來、あまり評價されてこなかったこの點に注目し、その要因を檢討するとともに、以上の點をふまえて「轉換」失敗の理由として從來あげられてきた論點を再檢討してみたい。併せて、共同占有解體の展望を考察してみたい。

〝業食佃力〟考

濱島敦俊

明末の江南デルタの農村に生じた土地所有構造ならびに社會構造の變化に伴って、從來は鄉居地主の掌握の下に、里甲制を軸に遂行されていた圩田水利（排水＝大朋車、ならびに圩岸・塘浦の濬築）をめぐる社會的諸關係が解體したことはすでに確認されたところである。ここに生じた水利の場の空白が、佃戶自身の地緣的結合によって自生的に塡められたとは考え難い。この空白に起因する水利の荒廢に對して、嘉靖期以降、公權力の介入が目立ち始め、萬曆年間に到ってその傾向は顯著となる。そこで設定される水利規範が、鄉紳的土地所有に照應する、水利の新たな社會的關係を創り出したのである。

これらの新しい水利規範に共通する骨格は、所有田土の面積に比例して勞役と費用を負擔する〝照田派役〟、及び照田派役に際して、鄉紳層の免役特權を認めない優免限制の二點にあるが、その具體的實施法として〝業食佃力〟が一般に登場する。ところで、現實の勞働を、佃戶層に提供させ、それに見合う米・錢を地主が支給するこの方法は、用語としては、周藤吉之氏の研究に紹介されており、すでに宋代に既出のものである。

この報告では、まず明末以降の業食佃力の具體的實施手續について若干の考察を行いたい。續いて、耿橋（十七世紀初頭）、陳繼儒

（十七世紀前半）等の史料に依って、明末の業食佃力の特徴について試論を提示したいと思う。

緬滇ルート探査とマーガリー事件

神戸輝夫

ヨーロッパ人による緬滇ルート探査は、十七世紀以來試みられた長い前史ともいうべき部分があるが、今回の報告では、その部分は置いて、一八六八年、一八七五年の二回にわたってイギリスの調査隊によっておこなわれたものをとりあげる。

一八六八年の探査は、スレイドン大尉（E. B. Sladen）を隊長とするもので、一行は、バーモ（Bhamo）を二月二十六日に出發し、雲南省の西部騰越廳に五月二十八日到着し、九月五日、バーモに歸還した。この探査の結果、バーモ・騰越間に、三本のルートのあることが確認され、これらのルートによる貿易の發展を期すため、騰越の回族指導者である李國綸や、ルート沿いの少數民族の首領らとの間に、關税についての非公式のとりきめが行なわれ、バーモには、副政府代理人（Assistant Political Agent）が設置されることになった。

一八七五年の探査は、ブラウン大尉（H. Browne）を隊長とするもので、その目的は、雲南省に起った新しい事態、すなわち、回族反亂の鎮壓、清朝支配の再確立に對處し、貿易ルートの再開を求めることにあった。一行を支滯なく雲南へと導くために、中國滯在のマーガリー（A. R. Margary）が、清朝から發給された護照（パスポート）を所持し、騰越からバーモに向い、一月十七日、ブラウン隊と遭遇した。マーガリーは、調査隊の先導となり、騰越に向け進んだが、途上で殺害された。マーガリー殺害の犯人は何者か、又その動機は何か謎の部分が多い。

嘉慶白蓮教反亂の特質について

小林一美

「嘉慶白蓮教反亂の解剖は、中國前近代における宗教反亂—とりわけ白蓮教系反亂—の解剖の第一歩である」という立場に立って、嘉慶白蓮教反亂を宗教現象、政治現象、軍事現象の三つの側面に分解し、三つの側面の固有の位相を明らかにする。そして、この三つの位相の關係性の總體として嘉慶白蓮教反亂の特質を浮びあがらせると同時に、中國前近代の宗教的反亂—とりわけ白蓮教系反亂—が持つ「構造的負の世界」の存在を主張したい。

「構造的負の世界」という概念は、歴史の深層あるいは歴史の暗部が持つ非連續の連續性、非時間性、始源的なるものへの回歸性、エロス的共同體志向、神話論的宇宙觀などに象徴される歴史の磁場にあたえた概念である。